

## **神の恵みを無駄にしない**

コリント人への手紙第一 15章6-11節

### **はじめに**

私が月の第二週に説教をする時は、「コリント人への手紙第一」から説教をしています。コリント人への手紙第一の15章は、「死者の復活」がテーマとなっています。

コリント教会には、「死者の復活はない」という人たちがいたようです（Ⅰコリント15：12）。ここでの「死者の復活」というのは、私たち人間の「からだのよみがえり」のことです。私たちは「使徒信条」で、「からだのよみがえり・・・を信ず」と告白していますが、聖書は、すべての人間が、イエス様が再びこの地上に来られる最後の審判の時に「からだのよみがえり」を経験すると教えています。クリスチャンであっても、クリスチャンでなくてもです。すべての人間が、「からだ」をもって、イエス様の前に最後の審判を受け、救いか滅びのどちらかを宣言されるのです。

パウロは、「もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう」（Ⅰコリント15：13）と言っています。パウロによれば、私たち人間の「からだのよみがえり」を信じないことは、イエス様の復活も否定することになるのです。逆に言えば、イエス様の復活があるからこそ、私たち人間の「からだのよみがえり」があるのです。このようにコリント教会の中には、「死者の復活はない」と言い、イエス様の復活までも否定しかねない考えを持つ人たちがいたのです。そこでパウロは、この15章で改めてコリント教会に「福音」を伝え、イエス様の十字架と復活、そして私たちの人間の「からだのよみがえり」について教えていくのです。

### **1. イエスの復活の証人たち**

イエス様は、私たちの罪のために十字架に架かり、死んで葬られました。イエス様は、私たちの罪を償うために十字架で死なれたのです。私たちの罪に向けられた神様の怒りと呪いを、イエス様は私たちに代わって十字架で受けてくださったのです。

そしてイエス様は、十字架の死から三日目によみがえられました。イエス様がよみがえられたということは、イエス様の身代わりの死が神様に完全に受け入れられたことを意味します。そしてイエス様こそ「神の子」であることを意味します。つまりイエス様が十字架の死からよみがえられたということは、神の子が私たちの罪を完全に償ってくださったということの何よりの証拠なのです。

では、イエス様の復活は、なぜ真実だと言えるのでしょうか。それは、死からよみがえられたイエス様を見たという多くの証人がいるからです。イエス様は十字架の死から三日

目に、ペテロに現れ、弟子たちに現れました。そして今日の聖書箇所6-9節にあるように、五百人以上のクリスチャンたちに現れ、イエス様の兄弟ヤコブに現れ、すべての使徒たちにも現れました。そして最後に、パウロにも現れたのです。

このようにイエス様は死からよみがえられた後、使徒たちをはじめ、五百人以上の人たちの前に現れ、御自分が神の子であること、また私たちの罪を完全に償ったことを示されたのです。イエス様の復活は、決して一人や二人の証言によるものではありません。五百人以上の目撃者による証言によって支えられているものなのです。

イエス様の弟子のペテロは、イエス様が十字架で死なれる時、イエス様を知らないとして三度も否定した人です。しかしその約五十日後に、彼は数千人の前で大胆にイエス様の十字架と復活を宣べ伝えるようになったのです。そして彼は生涯にわたってイエス様の十字架と復活を宣べ伝え、殉教の死を遂げるのです。何が彼をそこまで変えたのでしょうか。それは、死からよみがえられたイエス様との出会い以外に考えられません。復活のイエス様と出会い、彼は、イエス様こそ確かに神の子であり、自分の罪はすべて赦されたと確信したのです。だからこそ彼は、自分の命をかけてイエス様を宣べ伝え続けたのです。

イエス様の兄弟ヤコブもそうです。彼はイエス様が十字架で死なれるまで、イエス様を神の子だと信じていませんでした（ヨハネ7:5）。しかし彼は、イエス様が天に昇られた後、弟子たちや母マリヤと一緒に祈禱会に参加するようになっていたのです。そして、後に彼は、エルサレム教会を代表する指導者となり、彼もまた殉教の死を遂げるのです。彼もまた死からよみがえられたイエス様に出会い、人生が変わったのです。それまで信じられなかったイエス様を神の子と信じ、罪の赦しを確信したのです。

そして復活されたイエス様が、最後に現れたパウロもそうです。パウロは、復活のイエス様にお会いした最後の人です。パウロ以後、イエス様は誰にも死からよみがえられた姿を現わされませんでした。パウロは、復活のイエス様と出会う前、厳格なユダヤ教徒でした。彼はクリスチャンに敵対し、激しく迫害しました。クリスチャンを見つけては縛り上げ、牢に入れ、時には殺害することさえありました。しかし彼はある日、復活されたイエス様に出会い、イエス様こそ神の子であることを知るのでした。そして自分こそ神様に敵対していた者であることに気付かされたのです。そして彼は、罪の赦しを確信し、イエス様を迫害する者からイエス様を宣べ伝える者へと変えられたのです。彼もまた生涯にわたってイエス様を宣べ伝え、殉教の死を遂げます。

イエス様を信じない者、イエス様を知らないと否定する者、イエス様を迫害する者が、人が変わったかのように、イエス様の十字架と復活を生涯にわたって宣べ伝え、殉教の死を遂げるまでになったのです。このことはイエス様の復活が真実でなければ、説明がつかないことです。もしイエス様の復活が嘘であるならば、嘘のためにペテロやヤコブやパウロは自分の人生と命をかけるでしょうか。イエス様の復活が真実であるからこそ、彼らは自分の人生と命をかけて、イエス様を宣べ伝え続けたのではないのでしょうか。

## 2. 神の恵みによって今の私に

パウロは10節で、「**ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは無駄にならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのですが**」とっています。

パウロはここで「神の恵み」という言葉を繰り返します。パウロが救われ、人生が変わり、イエス様を迫害する者からイエス様を世界中に宣べ伝える者になったのは、全くの神様の恵みだと言うのです。

パウロは決してイエス様を求めていませんでした。復活のイエス様に出会う直前まで、イエス様に敵対し、イエス様を憎んでいたのです。しかしイエス様の方からパウロに近づき、死からよみがえられた御自分の姿を現わされたのです。そして彼を裁くのではなく、彼を赦し、彼に異邦人にイエス様を宣べ伝えるという使命を与えられたのです。パウロは、Ⅱコリント5：19でこのようにっています。「**神はキリストにあって、この世をご自分と和解させ、背きの責任を負わず、和解のことは私たちにゆだねられました**」。イエス様は、パウロに罪の責任を負わず、和解のことは、つまり「福音」を委ねられたのです。

そしてパウロは、「ほかのすべての使徒たちよりも多く働きました」。パウロは、小アジアやヨーロッパに福音を宣べ伝え、世界中に教会を建てました。そして新約聖書の27巻のうち13巻を書きました。どの使徒たちよりも、多くの人に福音を宣べ伝え、どの使徒たちよりも、多くの聖書の書物を書いたのです。

しかしパウロは、それはすべて「神様の恵み」によるものだと、すべての栄光を神様に帰しているのです。パウロは自分のことを、8節で「**月足らずで生まれた者**」、また9節では「**使徒の中で最も小さい者**」「**使徒と呼ばれるに値しない者**」とっています。確かにパウロは、他の使徒たちのように、生前のイエス様と共に過ごしていません。またただ単にイエス様を信じていなかっただけでなく、イエス様に敵対し、クリスチャンたちを迫害し、教会を滅ぼそうとしていたのです。彼は、神様に裁かれ、滅ぼされ、呪われても仕方のない人だったのです。彼はそれだけの間違いを犯してきたのです。しかし神様は、そんな彼を滅ぼすことをせず、愛し、ただ恵みによって復活のイエス様に出会わせ、すべての罪を赦し、彼に新たな使命を与えられたのです。そして使徒の一人として受け入れられたのです。

パウロは、「私に対するこの神の恵みは無駄にはならなかった」とっています。神様は、滅ぼされて捨てられても仕方のないパウロを、恵みによって赦し、使徒として受け入れました。その神様の恵みは、決して無駄にならず、多くの働きを生み出すようになった。パウロによって多くの実を結び、世界中に救われる人が起こされ、教会が立てられるようになったのです。そして神の言葉である聖書の一部も、パウロによって書かれることになったのです。

パウロは、自分の犯した罪をしっかりと自覚しました。どれだけ神様の前に大きな罪を犯したのかを自覚しました。だからこそ、「神様の恵み」を当たり前のこととしてではなく、「恵み」として捉え、「神様の恵み」に応えるような生き方をしたのです。

私たちもパウロのように、「神様の恵み」を無駄にしない生き方をしなければなりません。私たちは誰でも、「神様の恵み」によって救われました。パウロと同じように、私たちも、「神様の恵み」によって「今の私」があるのです。「神様の恵み」によらなければ、私たちはこの世において自分の罪の裁きの結果であるあらゆる苦しみと悲しみの中でもがき、死後には、この世の苦しみや悲しみに比べることもできない地獄の苦しみを味わい、最後の審判では、永遠の苦しみに捨てられるほかなかったのです。しかし神様は、私たちを愛し、聖霊を与えて罪を自覚させ、イエス様への信仰を与えてくださり、神様と和解させてくださいました。これは100%「神様の恵み」です。今の私たちがいるのは、すべて「神様の恵み」によることです。私たちは、残された人生を「神様の恵み」に応えるような生き方をしなければなりません。「神様の恵み」を無駄にしない生き方とは、「神様の恵み」に応える生き方をすることです。

私たちには、「神様の恵み」を無駄にするという生き方があり得るのです。「神様の恵み」によって救われたのに、それに応えるような生き方もせず、なおも罪の中に留まり、神様の御心に従うよりも、自分の欲望に従って生き、神様からの使命よりも、自分の自己実現のために人生を用いようとすることがあり得るのです。

私たちは、決して「神様の恵み」を無駄にしてはいけません。「神様の恵み」に応えるような生き方をしなければなりません。神様を悲しませるような生き方ではなく、神様に喜ばれるような生き方をしなければなりません。

## **おわりに**

イエス様の十字架と復活は、私たちの人生を変えます。神の子であるイエス様は、私たちの罪を償うために十字架で死なれ、その償いが完全であり、私たちの最大の敵である死を滅ぼすために、死から復活されました。イエス様を死からよみがえらせた神様の力は、私たちをもよみがえらせます。私たちがたとえどんな人生を歩んできたとしても、イエス様を死からよみがえらせた神様の力は、私たちを新しい人生へと生まれ変わらせます。

イエス様の復活がなければ、私たちに希望はありません。イエス様の復活は、私たちが何度でも人生をやり直せる希望なのです。私たちは「神様の恵み」を無駄にするような生き方をしていないでしょうか。しっかりと「神様の恵み」に応えるような生き方ができているでしょうか。過去の自分から「今の自分」になったのは、すべて「神様の恵み」によるものです。私たちは、与えられた人生を「神様の恵み」に応えるような生き方をしていきます。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたがただ恵みによって私たちを選び、愛し、救ってくださったことを感謝します。私たちはあなたの恵みによらなければ、ただ罪の中に死に、絶望の中を永遠に生きるほかありませんでした。

私たちがあなたの恵みが無駄にすることなく、あなたの恵みに応えるような生き方ができるように助けてください。イエス様の十字架と復活は、私たちの希望です。イエス様の十字架と復活は、私たちのすべての罪が赦され、私たちが新しい人生を生きることができる保証です。どうかイエス様をよみがえらせたあなたの力で、私たちが新しい人生を生きられるように導いてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。